

みなさま 明けましておめでとうございます。

2021 連合山形 新春旗開きにあたり、ご挨拶を申し上げます。今年は「丑年」であります。「歩みはゆっくり」でも「確実に」前に進む年になりますように、皆様との連帯・心合わせを大切に運動を進めてまいります。また、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

まず、今年は、県知事選挙と第 49 回衆議院議員選挙が予定されております。民主主義と地方自治をしっかりと遵守するためにも大変重要な選挙と考えております。一人ひとりの権利を確実に行使したいと思っております。

そして、圧倒的な勝利を目指すこと、連合山形すべての構成組織の皆様と心合わせをしたいと思っております。

現在もまだコロナ禍にあり、いかに「命」と「雇用」を守るかが大きな課題となります。病床の確保や自治体間での連携、自衛隊支援でのマンパワー確保など、今後も更なる対策が必要となっております。コロナ以外の治療も含め、医療体制をどのように維持していくのか、感染拡大を阻止するために人の交流を最小限にした場合の「生活」をどう維持していくのかを考えれば、政治の果たすべき役割は大きなものとなります。まさに、「公助」の機能をフル回転させなければなりません。

コロナを克服するには税收やサプライチェーン全体の付加価値を国民全体にいかに再分配するかに尽きると思っております。連合では新たな社会像として、「集中の経済」から「再分配の経済」への転換を提言してきました。雇用調整助成金を延長するなど評価できる対応もありますが、たとえば大幅に売り上げが減少した事業所に支給する「持続化給付金」の対応にあたっては、一部企業で受注し、そのまま他の企業に安く丸投げをし、利益を得ている形では「予算額のどれだけが事業所に再分配」されたのかははなはだ疑問です。

また、一人あたり 10 万円を給付するようなベーシックインカムに対応をどこまでやり切れるかが重要だと思っております。いかに、個人や事業所に直接支援を行き届かせられるかがこれからの大きなポイントだと思っております。

さて、まもなく春季生活闘争もスタートします。私たちが求める「働き方改革」を念頭に持続可能な働き甲斐のある職場づくりに奮闘したいと思っております。連合山形は結成して 30 年が経過いたしました。

これまで以上に「連帯と共助」のところで、多様性を認め合い、誰一人も取り残さない、包摂的な社会の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

確実に一歩ずつ、「私たちが未来を変える」 連合山形に結集するすべてのみなさんと共に運動を創造してまいります。念頭にあたってのあいさつといたします。 みなさん、共に、良い年にしてまいります。